

～～朝日カルチャー 筑後川河畔と山田堰～～

2023.6.16 (金)

季節は梅雨ですが、朝から快晴に恵まれ恵蘇八幡宮の鳥居下での集合に 26 名の会員さまとスタッフ 3 名の計 29 名でスタートしました。

急な 30 段ほどの階段を上るとすぐに本殿の境内に出ます。ムクノキ、ヒノキ、クスノキの大木の影で古代の白村江の戦いにまつわる話をしました。急死された斉明天皇の殯り（葬式）



をこの本殿のある場所で、息子の天智天皇が喪に服されましたという「こんな内地に天皇が来られたことや、そもそも古代の歴史に深い関係があると知らなかった。」との声がありました。さらに上りながらイチイガシ、ケヤキなど観察して斉明天皇の御陵を見学しました。

次に道路を渡り、筑後川沿いにある中村哲医師のモニュメントの前へ。全国で唯一の「傾斜堰床式石張堰」という山田堰をアフガニスタンの用水路の参考にされた理由の説明から始めました。筑後川とアフガニスタンのクナル川は急流で洪水も多いこと、地形や夏冬の水位差が著しいことなど似ています。川の広く蛇行するところから取水して、運航する舟や魚の通行を妨げない、水門の手前に土砂吐きをつくりきれいな水を用水路に流す、また生態系も壊さない素晴らしい方法だと考えられたからのようです。どなたも中村哲先生のごことはよくご存じなので、じっと聞き入られていました。

強い日差しの中、ゴウゴウと鳴る流れの迫力を左に見ながら歩いて水神社へ着きます。ここからは真上から山田堰を見ることができます。近くで見ると江戸時代からの原形をとどめていることがよくわかります。川床の石の大小や向きや並びなどに驚きます。川の流れは傾斜した石床を通るとき、数メートルの距離を石と水が白波をたててぶつかり合うので、下流ではすでに弱い流れになっていて、この堰で水流の力や速度を調整していることがよくわかります。皆さんもいろんな角度で写真を撮られていました。

筑後川沿いの道ではノアザミやヒメジョオンが暑さに負けず咲いています。川原にはオオヨシキリ、セッカ、シジュウカラの鳴き声が響いて、「森じゃなくても鳥がいるのですね」との声も。堀川用水沿いはソメイヨシノの並木道で、30 分ほど歩いて三連水車の里に到着です。ここで休憩と昼食を済ませました。2 時 30 分に筑後吉井駅までのマイクロバスが迎えて、ここで別れになり帰途につきました。

担当：高田、大熊

